身近な自然環境・歴史的文化的環境・生活環境を保全・回復・創成する

NPO 法人すいた市民環境会議　　２０１９年２月　第１２１号

吹田の郷

発行/NPO 法人すいた市民環境会議　会長/小田忠文　ホームページhttp://www3.big.or.jp/~sskk/sskk.htm　設立/1997 年 3 月 15 日
事務局/〒564-0062 大阪府吹田市垂水町 3 丁目 8-28-106　中村小夜子　TEL/090-8375-0647 FAX/06-6386-9491　編集/会報委員会
年会費/正会員（個人･団体）1,000 円、正会員（法人）10,000 円、購読会員 1,000 円、賛助会員 10,000 円　郵便振込口座番号/00980-3-28845

目　次

１．表紙
２．会長コラムと表紙の絵説明
３．自然エネルギーすいた（SES）ニュース
　吹田ぷくぷく市民共同発電所
４．生きもの委員会ニュース　吹田の大木 1709 本
６．生きもの委員会ニュース
　倒木が教えてくれた根の姿
７．初詣吉志部神社、紫金山みどりの会事始め
８．まちなみ委員会ニュース
　まちなみ散策「中津･豊崎のオープン長屋」
10．展示会＆講演会「仏教と自然」参加報告
11．私の本棚
　「捨てない未来」はこのビジネスから･･
12．知床あれこれ、講演会案内など

コラム

春夏秋冬

会長　小田忠文

新しい年を迎えましたが、どこに行っても「平成最後の」という言葉を耳にして、新年という感覚に乏しい正月でした。2017 年度に 3 回目の大木調査をして 1709 本の大木を記録しました。今年度はその報告書を作る予定でした。しかし昨年 9 月の台風 21 号で大量の大木が倒れました。▲倒れたため存在しなくなった大木を報告書に載せるわけにもいかないので、昨年末から順次倒木調査を始めました。その結果 2017 年度の調査後に台風による倒木や開発のため消えた大木は 1709 本の 5%、84 本もありました（5 頁）。▲なぜこんなに倒れたのだろうと思い、大阪の最大瞬間風速の記録を見ると、1 位は 1934 年の室戸台風で 60.0m、2 位は 1961 年の第二室戸台風の 50.6m、そして昨年の台風 21 号の 47.4m と続きました。千里ニュータウンは 1960 年代に更地にしてから作られ、万博公園は 1970 年以後に作られたもので、そこで育った木々にとって生まれて初めて体験した風速 47m だったのです。▲昨年を振り返ると 7 月の七夕を前に線状降水帯が愛媛県から広島・岡山県に停滞して各地で土砂崩れや水害を起こしました。7 月末には吹田祭りを中止に追い込んだ台風 12 号は伊勢市付近に上陸したあと観測史上はじめて日本列島を西進し九州から上海付近に達しました。台風が去ったあとは「命にかかわる危険な暑さ」とアナウンサーが叫ぶ猛暑が続きました。9 月には大阪府北部地震があり、いまでもブルーシートをかぶった屋根を散見します。まさに「今年の漢字」に「災」が選ばれたのも納得できる年でした。▲倒木調査をしていた 12 月に大阪歴史博物館で総合地球環境学研究所（地球研）主催のセミナー「私たちの祖先は気候変動にいかに対峙してきたか」に参加しました。前述したように最近の気象データはしっかりと残っていますが、驚いたことに過去 3000 年にわたって年ごとの降水量と気温の変化がわかってきているのです。地球研では樹木の年輪に含まれるセルロースの酸素同位体比という指標を使い、ここ 10 年間の研究の結果、複数の地域にまたがって縄文時代中期すなわち 4000 年以上前まで、年単位で降水量のパターンがわかったそうです。大昔の洪水や干ばつが年単位で分かってきたのでこのデータと日本史とを照らし合わせた研究がどんどん進んでいます。あまり前例を聞かない理科系と文科系の研究コラボなので今後の成果が楽しみです。▲中の島公園にあって市内で唯一だったクワの大木も倒れました。しかしそのおかげで年輪を見ることができ樹齢約 38 年とわかりました。年輪はただ樹齢が分かる手段だと思っていましたが、科学の進歩に腰を抜かすほど驚かされたセミナーでした。台風にもめげず生き残っている市内の大木たちも年輪を作りながらその中に気候データを蓄積しているのだと思って木々をながめた正月でした。

＜表紙の絵＞　　吹田の生きものシリーズ（２１）

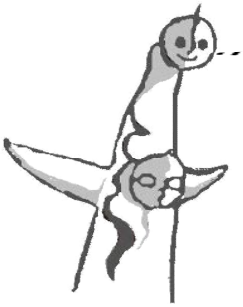
クスノキ（クスノキ科）

「クスノキ」はクスノキ科の高木で常緑樹。本州南西域から四国・九州にかけて多く見かけるが、台湾・中国・ベトナムなどから、古くに我が国へ移入された「史前帰化植物」であると云われている。

葉は春に芽吹き、乳白色の花が初夏に咲き、実は秋に黒く熟する。実を啄ばんだ野鳥が吐きもどした「ペリット」（「消化されずに吐きもどしたモノ」を云う）に含まれたタネから芽生えて育つが、公園や緑地、社寺林や雑木林などでよく見かける身近な樹木で、巨木や大木になることから多くの市町村がシンボルの樹木として指定している。（注：大阪府は全国で最も多く吹田市など 13 市 3 町 1 村が「クスノキ」をシンボルに指定している）

枝葉や幹に傷を付けると、強い芳香を放つが、それは「防虫剤」や「鎮痛剤」になる「樟脳」で、「樟脳」の薬効をあてに「仏像」や「タンスの内張り」などに「クスノキ」を使用している。アゲハチョウ科の「アオスジアゲハ」の幼虫は「クスノキ」の葉をエサにして育つ。また、「クスノキ」の葉には「ハダニ」と云う「ダニ」が「ダニ室」と云う住み家を造って住み付いている。まさに「タデ喰うムシも好きずき」である。

（表紙の絵と文：生きもの委員　塩田 敏治）



自然エネルギーすいた(SES) ニュース　自然エネルギーすいたプロジェクト　長岡弘隆

吹田ぷくぷく市民共同発電所 2018年間実績報告

2017年1月に運転開始した「吹田ぷくぷく市民共同発電所」は、おかげさまで、無事に二周年を迎えることができました。改めてみなさまのご協力に感謝いたします。今回は2018年間の実績を総括し、報告します。

1．年間発電量等

2018年の年間発電量等は下記の通りです。

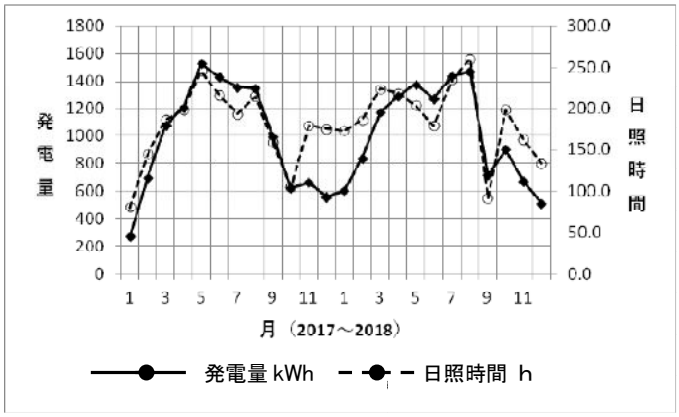
（　）内は2017年実績と増減値

発電量	12,251kWh(11,753kWh, ＋498kWh)
関西電力への売電量	3,022kWh(2,828kWh, ＋194kWh)
発電の内、自家消費量	9,229kWh(8,925kWh, ＋304kWh)
自家消費率	75.33%（ 75.94%，－0.61%）

年間の発電量としては、前年比498kWhの増加だったが、2017年は1月17日から稼働したため、約半月分発電量が少なくなっており、そのことを考慮すれば、ほぼ前年並みと言えます。また、前年と同様に自家消費率は約75%でした。事前の想定では67%程度でしたが、それより高い比率となっています。FIT制度による売電が10年間のみ（単価31円/kWh）なので、高い自家消費率はうれしい誤算です。

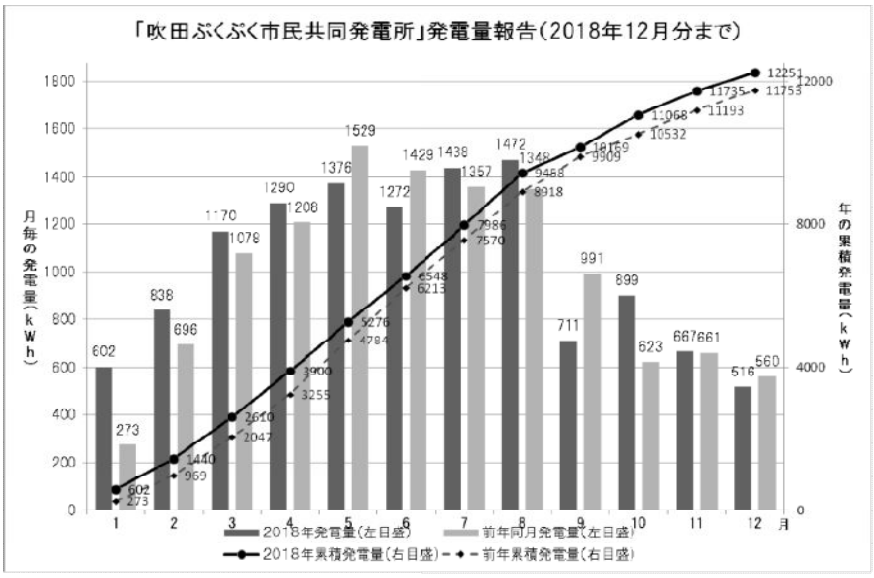
2．月毎の発電量

月毎に見ると、下のグラフのように、3月から8月にかけて発電量が多く、9月に入ると落ち込む傾向が見られます。体感的に日射しが厳しいと感じる時期に比べて、1カ月程度前倒しになっているのが興味深いところです。また、前年に比べて発電量が違う月があります。1月は2017年が実質半月ほどでしたので違うのは当然として、それ以外では、5、6月が前年比やや減、9月は同大きく減、10月は同大きく増、というのが目立ちます。この原因は何かと考え、大阪の日照時間と比較したのが下のグラフになります。ちなみに日照時間の定義は、直達日射量が120W/㎡以上である



時間で、目安としては直射光によって影ができる程度の日照がある時間とのことです。結果から概ね相関性が認められますが、冬の時期に関しては変動が一致しないこともあるようです。

太陽光発電一般として、温度上昇すれば発電効率が落ちるということがありますが、熱に強いCIS太陽電池を使っているためか、真夏の時期でも効率はあまり低下していないようです。



3．その他のトピックス

2018年は、大阪北部地震(6/18)や台風21号(9/4)といった天災に遭遇した年でありましたが、特に設備の異常もなく発電できたのは幸いなことでした。今年も無事に良い実績を残せるように、微力ながら頑張りたいと思います。

生きもの委員会ニュース　吹田の大木 2017 は 1709 本

生きもの委員会　平　軍二

１．吹田の大木 1709 本の内訳

これまで報告しているように、2017 年 3 月スタートした調査で吹田の大木を 1709 本確認した。しかし 2017 年台風 21 号、2018 年台風 21 号による倒木や、住宅地への改変による大木伐採があり、調査した大木が無くなっていたことから、再調査を行った。2019 年 1 月までにほぼその実態を確認することができたので、ようやく、大木冊子に向けた集約作業に入った。

①幹周りレベル別大木本数

2017 年大木の幹周りレベルを 2007 年と比較した。大木本数が 928 本→1709 本と 1.8 倍になったが、幹周りレベル毎の比率は 2007 年・2017 年がほぼ同一割合であった。また、2017 年大木 200～220 ㎝レベル 713 本は、2007 年に比し増加した 781 本のほとんどを占めている。この結果は、幹周り 200 ㎝前後の大木の 10 年間での生長（幹周り増）が、約 20 ㎝であることがわかる。

表１　幹周りレベル別大木本数

	大木本数			比率	
幹周りcm	2007年	2017年	差異	2007年%	2017年%
401～	3	5	2	0.3%	0.3%
301～400	56	101	45	6.0%	5.9%
251～300	158	323	165	17.0%	18.9%
221～250	321	567	246	34.6%	33.2%
200～220	390	713	323	42.0%	41.7%
計	928	1709	781	100.0%	100.0%

②大木ベスト 10

大木のベスト 10 は表 2 の通りでベスト 1～4 は 2007 年と同じ木で、この 4 本は順調に生育している。

表２　大木ベスト 10

2007年順位							2017年順位							
順位	番号	町名	所在地	種名	幹周りcm	株立ち	順位	2007年順位	町名	所在地	樹種	幹周130	株立ち数	幹周り増
1	65	内本町1	民家	クスノキ	467	1	1	1	内本町1	民家	クスノキ	479	1	+12
2	363	千里山東3	関西大学	クスノキ	435	9	2	2	千里山東3	関西大学	クスノキ	460	9	+25
3	334	千里山東3	関西大学	クスノキ	424	1	3	3	千里山東3	関西大学	クスノキ	457	2	+33
4	340	千里山東3	関西大学	クスノキ	390	1	4	4	千里山東3	関西大学	クスノキ	411	1	+21
5	138	岸部中5	民家	クスノキ	380	1	5	26	南金田2	糸田川左岸堤防	エノキ	402	2	+73
6	373	千里山東3	関西大学	エノキ	363	4	6	6	千里山東3	関西大学	エノキ	394	4	+4
7	72	内本町3	大雄院	クスノキ	361	1	7	10	芳野町	アメニティ江坂	クスノキ	393	1	+39
8	362	千里山東3	関西大学	クスノキ	358	2	8	20	垂水町1	垂水神社	クスノキ	389	1	+50
9	68	内本町2	民家	クスノキ	357	1	9	ベスト30外	古江台6	弘済院	ポプラ	388	1	+67
10	912	芳野町	アメニテイ江坂	クスノキ	354	1	10	7	内本町3	大雄院	クスノキ	374	1	+13
11	154	佐竹台3	佐竹公園	クスノキ	349	2	10	23	津雲台1	千里南公園	ユーカリ	374	1	+43

2007 年大木第 5 位、岸部中の民家のクスノキは、1988 年に環境庁が全国一斉巨樹・巨木調査を行い、全国で 5 万本有りと報告したとき、吹田市にあった巨樹 5 本の内の 1 本という記念すべき木であった。その後、落ち葉問題などから、何段階かで枝切りされ、今は右写真のように枯れ木が残っているのみ、残念である。

③町名別、④所在地別大木本数ベスト 10

町名別にはトップの千里万博公園から藤白台・津雲台・高野台とニュータウン住区が続き、第 4 位までは 2007 年と同じであった。

この理由は表４の所在地別からわかるが、万博公園・千里北＆南公園などの都市公園、そして千里緑地で大木が増えていることによる。

表3　町名別ベスト 10

	2007年		2017年		増加率
	町名	本数	町名	本数	
1	千里万博公園	116	千里万博公園	288	248%
2	藤白台	102	藤白台	211	207%
3	津雲台	68	津雲台	138	203%
4	高野台	58	高野台	114	197%
5	千里山東	58	古江台	83	237%
6	青山台	38	千里山東	80	138%
7	山手町	36	佐竹台	76	245%
8	古江台	35	青山台	66	174%
9	佐竹台	31	桃山台	48	┐
10	江坂町	29	中の島町	44	│
	その他	357	その他	561	155%
	計	928	計	1709	184%

表4　所在地別ベスト 10

	2007年		2017年		増加率
	所在地	本数	所在地	本数	
1	万博公園	116	万博公園	292	252%
2	関西大学	87	千里緑地	156	264%
3	千里北公園	76	千里北公園	142	187%
4	千里緑地	59	関西大学	107	123%
5	千里南公園	40	千里南公園	70	175%
6	高川沿い	40	弘済院	48	185%
7	弘済院	26	中の島町公園	39	217%
8	垂水神社	19	紫金山公園	28	175%
9	中の島公園	18	大阪大学	26	┐
10	紫金山公園	16	桃山公園	24	│
	その他	431	その他	777	175%
	計	928	計	1709	184%

吹田市内の都市公園に大木が多いのは、昭和 40～50 年代に整備され樹齢が 40～50 年となり、大木レベルに達したためと思われる。一方、関西大学は大木数が増加したものの所在地別でランクダウンしたのは、昭和 20～30 年代に植樹されていて、2007 年時点で大木レベルに達していた木が多かったことによる。表１幹周りランキングで関西大学が上位を占めていることは、吹田市内では植樹時期が早かった上、切られることなく、大事にされてきたためである。

⑤樹種別大木本数ベスト 10

樹種別ではクスノキ本数が断然トップで、全体の 37%を占めた。1997 年比伸び率の大きいのはヒマラヤスギが 0 本→50 本、メタセコイアで 4 本→150 本で急増している。

2007 年比伸び率ではこの 2 種にケヤキ・アベマキが加わった。ケヤキが多くなったのは万博公園などで植栽した木が成長したもの、アベマキが多いのは千里第 4 緑地など各地に残る里山林にあった木が合格ラインに到達したものである。

表５　樹種別本数ベストテン

	樹種名	1997年	2007年	2017年		1997年比倍数	2007年比倍数
		本数	本数	本数	比率		
1	クスノキ	147	372	631	36.9%	4.3倍	1.7倍
2	メタセコイア	4	60	150	8.8%	37.5倍	2.5倍
3	サクラ	41	54	109	6.4%	2.7倍	2.0倍
4	アベマキ	40	41	104	6.1%	2.6倍	2.5倍
5	ポプラ	19	69	80	4.7%	4.2倍	1.2倍
6	エノキ	34	63	76	4.4%	2.2倍	1.2倍
7	コナラ	17	46	72	4.2%	4.2倍	1.6倍
8	ケヤキ	8	21	71	4.2%	8.9倍	3.4倍
9	マツ	7	23	51	3.0%	7.3倍	2.2倍
10	ヒマラヤスギ	0	16	50	2.9%	∞	3.1倍
	その他	103	163	315	18.4%	3.1倍	1.9倍
	計	420	928	1709	100.0%	4.1倍	1.8倍

２．倒木・伐木は 84 本

前号で報告のように、2018 年台風 21 号での倒木が多かったので、吹田全域での大木の倒木・伐木状況を再調査した。その結果、大木 1709 本の 5%、84 本の大木が無くなっていた。倒木で目立つのはポプラとヒマラヤスギ、何れも表 5 で大木が急増した樹種、成長の早い木は倒れやすい木であることがわかる。メタセコイアも同様に成長が早い木、倒木数は少なかったものの、幹折れした木が多数発生した。幹折れ状態で残った木は 1.3m 高での幹周りが 200 ㎝以上と変わらないので、大木に合格しているとして、今回の倒木数に含めていない。

しかし万博公園・太陽の広場では、幹折れの木 3 本(写真は調査 No1076、No2800 の 2 本)が撤去され、切株さえも残されていなかった。

今後、安全面・景観面から、残っている幹折れ木が撤去されるケースが出てくると思われる。

表６　樹種別倒木数

		比率	倒木数
1	クワ	100%	1
2	ポプラ	33%	26
3	センペルセコイア	30%	3
4	ヒマラヤスギ	28%	14
5	コナラ	17%	12
6	ユーカリ	15%	4
7	ユリノキ	9.1%	1
8	アキニレ	8.3%	1
9	マツ	5.9%	3
10	シイノキ	5.9%	1
11	プラタナス	5.1%	2
12	エノキ	3.9%	3
13	サクラ	3.7%	4
14	メタセコイア	2.7%	4
15	アベマキ	1.9%	2
16	クスノキ	0.5%	3
	計	4.9%	84

またコナラが多いのは、千里丘中にあった里山林（コナラ樹林）が住宅地に改変され、10 本がまとまって無くなったためで、台風による倒木ではない。これまで公園などで樹木の枝を切り落とされ、葉の緑が少なくなる状況を、苦々しい思いで見てきた。しかし今回の台風で、枝切りされていた木が生き残り、枝切りされていなかった木が、葉の重さ故か倒木となり撤去されるのを見ることとなり、「枝切りやむなし」と肯定せざるを得ない状況になった。

倒木調査が終わり、大木冊子を 3 月末までに完成させるべく、編集作業に鋭意取り組んでいる。

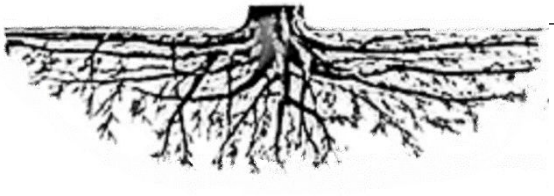
大木講演会開催の案内

日時：2019 年 3 月 31 日(日)　10:00～12:00
場所：ラコルタ(市民公益活動センター)Ｂ会議室
講師：神戸大学名誉教授　武田義明先生
テーマ：大木の意義について(仮題)
　　大木調査結果概略報告（環境会議）
会費：無料
追記：終了後、大木調査関係者との懇親会を開催予定
　　(場所・会費未定)

＜生きもの委員会ニュース＞

倒木が教えてくれた根の姿

生きもの委員会
喜田久美子



昨年10月の台風21号につづき、今年9月4日の台風 21 号の暴風によって、吹田市内でも多くの木が倒れました。市の災害対策本部議事録によれば、樹木被害（推計）は 1000 本以上とのこと。傾いた木、枝が折れたものなどを合わせればどれほどの数にのぼるのでしょう。木陰や癒しの効果など多くの恵みを与えてくれた木々があっけなく倒れたのは残念なことでした。

今回、市内のあちらこちらで倒れた木の根っこを見る機会がありました。いつもすっくと立って枝を広げている地上部の姿しか見ていなかったので、倒れた木々の地面の下から現れた根の姿に驚きました。大木なら大木なりに幹と同じぐらいの根が深く張っているのだと思っていたのに、露わになった木の根は横に広がり、これなら倒れるのももっともと思う薄さ。深く太く地面に伸びた根が見当たらないのです。

・・・・・・・

そこで、木の根について、少しですが調べてみました。まず、根は木の重さの 30%ほどしかないそうです。樹種や生えている環境によって違いがあるようですが、案外少ないのだと思いました。

根の役割は大きく二つ。一つ目は水と栄養分を吸い上げ地上部まで届けること。これを担っているのが「細根」で、直径２ミリ以下の根のことを指すことが多いそうです。「細根」は数か月で枯死し、また新たに生まれるということを繰り返しています。これは、養水分の吸収と同時に、地中の酸素を吸収し炭酸ガスを放出するという重要な活動をしています。

二つ目は木の幹を支えること。これを担っているのが「支持根」。幹の下に伸びる「直根」と横に伸びる「側根」に分けられます。これが広がり絡み合って幹を支えています。

これらの根の 80％～90%は地下 30～60cm のところに分布しているそうです。「根張り」（水平方向への生長）が地上の「枝張り」以上になるのに対し、「根の深さ」（垂直方向への生長）は浅いもので 50cm、深いものでも 1.5m程度とのこと。根は思いのほか広く浅く、これで地上部を支えているのです。

・・・・・・・

ところで吹田の木々は植えられたものが多いだろうと思います。「実生」といわれる種から育った木は「直根」などがよく発達するそうですが、畑で育てられた木は、輸送コストの関係で「直根」などを切られて運搬、移植されるので特に「根の深さ」がないそうです。また、ポットで育てられ移植された木は、「支持根」がポットの中でとぐろを巻いたようになっているとか。根が切られることがないため活着率は高いとしても、それ以上に根は生長しないということです。

私たちの周りの樹々は、実は多くがこのような貧弱な根を持っているのではないでしょうか。今後、厳しい気候が予想される中、都市の緑化を考えるとき、地上の緑ばかりでなく地下の姿も考慮して、安全で豊かな緑を育てる工夫が必要なのではないかと思いました。

大木1785　ヒマラヤスギ（桃山公園）

＜吹田のトピックス＞
初詣吉志部神社 ＆ 紫金山みどりの会事始め

当会ブログより　会報委員会

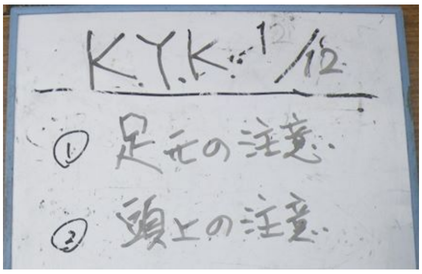
１．初詣吉志部神社　（提供　まちなみ委員　岡崎強一）

元旦に初詣、昨年６月 18 日７時 58 分に起きた大阪府北部地震で倒壊しました吉志部神社の鳥居がわずか半年で復元していました。大勢の参拝客で賑わっていました。

階段上の門も解体して復元されていました。

２．紫金山みどりの会事始め　（提供　紫金山みどりの会　小田忠文）

１月 12 日（土）から今年の作業が始まりました。「今年も無事故で楽しくやりましょう！」と、「危険予知活動（KYK）」を実施してスタート。神社の背後（裏山）の倒木整理に精を出しました。午後は参集殿で新年会、一年の活動と健康を祈念して乾杯。



〜〜〜

★当会のブログ **http://sskk97.blog73.fc2.com/**

適宜、吹田のトピックスを発信しています。ときどき覗いて見て下さい！！

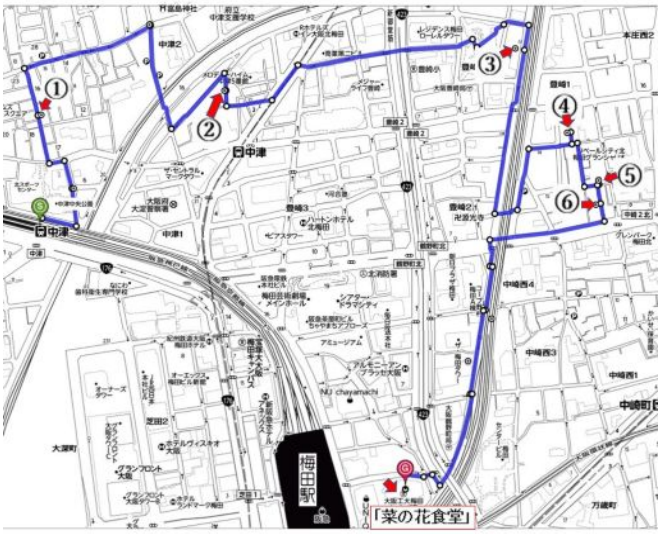
＜まちなみ委員会ニュース＞
～中津・豊崎地域：オープン長屋散策～

まちなみ委員会　金指 弘

昨年 12 月 17 日(月)まちなみ委員ほか 15 名で、JR 大阪駅北「うめきた」開発、北梅田駅開設にともなう中津高架線の地下化などで、変わりゆく中津・豊崎地域の改造長屋と路地を散策しました。

巨大ビルに囲まれた中に、まだまだ多くの長屋が残る町並みや路地を昔懐かしく歩きました。

今回は、時間的に外観だけの散策で建物内部には入れなかったのが残念でした。



散策の順路図（①～⑥～[菜の花食堂]）

＜改造長屋＞

- 古くからの長屋を住居やオフィス、店舗などに改造したもの
- 長屋暮らしを楽しむ建築士やイラストレーターが自分でデザインし、事務所や住居として利用している。
- 大阪市立大学モデル「オープンナガヤ大阪」のはじまりの町家「豊崎長屋主屋」は 6 棟の長屋に囲まれている。

豊崎長屋での研究成果やリノベーションをまとめた 2013 年出版『いきている長屋－大阪市大モデルの構築』が 2018 年日本建築学会著作賞を受賞

オープンナガヤ大阪は大阪型近代長屋の保全活用を促進するためのオープンハウスイベントです。これまで長屋は特別価値のある建物とは評価されてきませんでした。しかし近代以降の大阪のまちを形成した長屋建ての住居は、身近な住居であるからこそ大阪の住文化を受け継ぐ器としての役割を果たしてきました。

①中津商店街の併用住宅（一級建築士の設計事務所）⇒ ②キタの北ナガヤ（キタナガ路地）⇒
⇒ ③翠明荘（長屋風スモールオフィス）⇒ ④RE:Toyosaki（イラストレーターの住居）⇒
⇒ ⑤SAORI 豊崎長屋（市大モデル：さおり織体験）⇒ ⑥豊崎長屋主屋（オープン長屋の発祥地）⇒
⇒ 大阪工業大学梅田キャンパス「菜の花食堂」

1. 中津商店街の併用住宅【一級建築士の設計事務所】

中津商店街という静かな商店街に面した築 100 年の 4 軒長屋の 2 軒分を、設計事務所を住居として一部 DIY もしながらフルリノベーションしていました。関西圏を中心に全国で住宅、店舗、福祉施設、工場など様々な種類の建築をデザインされています。設計時には建築後の時代変化に対応した改造ができるように配慮するとの事です。

下見の時に完成までのプロセスを伺ったところ、リノベーション中に長屋の皆さんと話をする機会ができ、地域になじむ第一歩の期間であったと話されました。また、そのときに大阪市立大学の「オープンナガヤ大阪」活動の紹介を頂き、今回の散策のきっかけとなりました。

2. キタの北ナガヤ【キタナガ路地】

キタナガキッチンメンバーや梅田北エリアのお店などが、長屋を改造して飲食店や物販店をされています。写真左側の「HOOD by Vargas」は、中津の路地にひっそり出現するカフェ。木を生かしたカジュアルでリラックスした雰囲気の店内で、ハンドドリップコーヒーを提供。下見の時に立ち寄りおいしいコーヒーをいただきました。若いマスターは吹田の出身で気さくな方でした。後で知ったのですが、中津のカリスマカフェで、いちじくの美味しい季節にしか提供しないという「いちじくトースト」がたいへん人気のあるメニューだそうです。

3、翠明荘(すいめいそう)【長屋風スモールオフィス】

梅田から徒歩圏内である豊崎の古い木造アパートの各部屋をスモールオフィスへと改修した建物です。

木賃アパートの名残りとしてタイルの炊事場を各部屋に残しているので、古さゆえの味が随所に見え隠れする各区画となっています。お隣さんの気配を感じながら仕事ができるそうです。これから独立・起業をお考えの方、ちょっと仕事場として欲しい方に、また、アトリエとしての創作活動の場にオススメです。

4、RE:Toyosaki【イラストレーターの住居】

能勢のイラストレーターご夫婦が住居としている元長屋です。下見で伺ったときの話では、自分たちが好きな物に囲まれた暮らしを愉しんでおられるとのことでした。オープンナガヤのイベント時には、ご自宅内をギャラリー＆雑貨店として紹介されます。

5、SAORI 豊崎長屋【市大モデル：さおり織体験】

梅田からちょっとあるいたところにある「さをり織り」体験工房です。好きな糸をたくさん選んで自分だけのオリジナルなマフラーを織ることができます。

「さをり織り」は 1968 年に城みさをさんが大阪で始めた、年齢、障がいに関係なく自由に好きに自己表現ができる現代手織りです。ここでは障害のある人が指導者となり、体験織りの人々に優しくゆったりと指導することで、のんびりとした癒しの空気の中で、楽しく手織りを堪能していただくことができます。

6、豊崎長屋主屋【オープン長屋の発祥地】

豊崎長屋の主屋は大正元年に建てられ、築 100 年程の歴史を持つ豊崎長屋郡の中心となる建物です。6 棟の長屋に囲まれるようにして建っていて、大正時代の大阪の町家らしいデザインが随所に見られます。立派なつくりの建物が、今もオーナーさんによって丁寧に住まわれています。築 105 年で国の登録有形文化財にも指定されています。

7、菜の花食堂【大阪工業大学梅田キャンパス】

OIT 梅田タワーの 21 階に、テラス席を配した展望レストランです。大阪工業大学の学生、教職員だけでなく、地域の皆さんなど一般の人も利用できます。（ランチビュッフェ 一般：600 円）

朝・昼はランチビュッフェ「菜の花食堂」、夜はイタリアンレストラン「リストランテ翔２１」として営業しています。

栄養バランスを考えた献立

屋内席と外の景色が楽しめるテラス席があり
広々としたテラス席からは HEP FIVE 観覧車が見えます

兵庫県立人と自然の博物館　自然史レガシー継承・発信委員会企画
企画展「仏教と自然」＆講演「お寺で宇宙学」
～日本文化を育んだ自然～

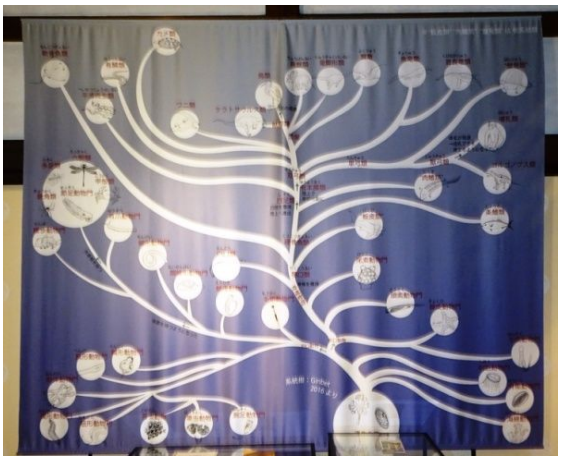
まちなみ委員　松岡 要三

兵庫県立人と自然の博物館の館外企画展が京都市下京区塩小路通の龍岸寺(**写真下**)で開催されていたので 12 月 24 日に参加しました。この展示会は、国内各地の自然史博物館（大阪市立自然史博物館や伊丹昆虫館など）が協力し、古いお寺を舞台に仏教と日本の自然との関わりを伝える展示会で、歴史的建造物がもつ空間の趣と自然史標本のもつ美しさを融合させた展示でした。色んなところに「**Where culture meets nature**」の幟（のぼり）が掲げられ、私にとって初めて体験するユニークな展示会でした。

仏教の教えは、生物や自然界の仕組みとも密接な関わりがあり、仏教の自然観は自然科学の原理と合符するところも多く、人類が自然と共生して暮らしていく上でも大切な視点をもたらしてくれています。寺は永らく地域コミュニティの核の一つであり、町人の子弟に読み書きそろばんを教える学校の役割も果たしていました。

会場となる龍岸寺は、日本の天文学の開祖である渋川春海ゆかりの地でもあり、自然科学とも深く関わっています。展示会では、仏教とゆかりのある動植物や祭礼で利用される自然由来のもの、建物やお墓で利用されてきた岩石、動植物の進化の歴史、日本最古の天球儀のプロジェクションマッピングの影像展示もありました。

関連する講演も多数行なわれ、**「お寺で宇宙学」**に参加しました。



展示概要

1．渋川春海が見た宇宙。渋川春海は日本初の天文学者で日本初の暦を作った人物で、映画「天地明察」の主人公です。会場の龍岸寺は渋川の実家の跡地にあるため、渋川の功績と彼がつくった天球図の紹介。
2．星座になった生き物
3．仏教にゆかりの深い植物
4．釈迦の涅槃図（**写真右上**）、仏典に登場する動物
5．動物の系統樹曇荼羅(**写真右下**)、単細胞生物から人間まで、動物進化の歴史を憂荼羅と標本で紹介する

講演「お寺で宇宙学」（**写真右**）

1．天空から地球環境を読みとく
　講師：伊勢武史准教授
　　（京都大学フィールド科学研究所）
2．浄土双六で学ぶ仏教の世界観
　講師：向井真人副住職
　　（臨済宗妙心寺派陽岳寺）

幟を持ったタヌキがお迎え

＜私の本棚より お勧めの１冊＞

岩本 美智彦 著 「捨てない未来」はこのビジネスから生まれる

赤字しらずの小さなベンチャー「日本環境設計」のすごいしくみ

理事　岡本 智子

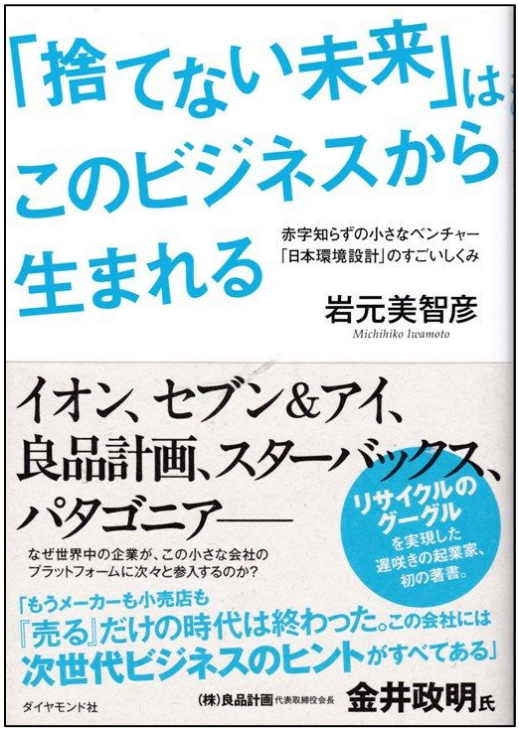
よくある起業家のすごいお話。でも「本」としてはあまり面白くありません(笑)

最近、流行りの「断捨離」「ミニマムな暮らし」「持たない暮らし」。物を減らそうと思ってもなかなか、「捨てられるもの」は家の中で見つからず。「捨てる」ではなく「リサイクル」される仕組みがあれば、手放すこともっと楽になるのではと思います。良質な物を長く使うことが理想的かなと思いますが、私たちは便利なことをいいことに「使い捨て」の文化を享受しています。しかし、消費社会のその先にあるものは決して明るい未来ではないことをもう皆さんはお気づきだと思います。ここ数年の肌身に感じる地球温暖化等。災害に接する度に持続可能な社会にむけて取り組んでいることさえもう手遅れだと感じる日々です。

この本の著者は2006年「バイオエタノール」についての記事を目にし、そこから「トウモロコシで出来るなら綿からもバイオエタノールができるのでは？」ということを思いつきました。

「着なくなった衣料品をリサイクルする仕組み」ができないかと、元居た会社を退職し、二人でベンチャー企業を立ち上げる。海外製品に押され、廃業する工場が多くあった今治のタオル工場に目をつけ、リサイクルプラントを手にすることとなります。今治タオルの生産過程で「タオルの耳」と呼ばれる綿のかすが年間300トンも出るそうです。衣料品を回収するシステムが安定化するまではこれが大活躍。

その後この企業では「綿からエタノールをつくる」「プラスチックから再生油をつくる」「ポリエステルからポリエステルを再生する」という技術を手にしました。エタノールをつくる、再生油をつくるということは「資源がうまれる」技術ですが、ポリエステルの再生技術は、「服を服に戻す」技術です。新たにポリエステルの原料は石油ですので、新たな資源がいらないということになります。衣料のポリエステルからペレットという小さな塊をつくりそこからポリエステルの糸が生成されるそうです。この世界には消費されずに廃棄される衣料がたくさんあります。廃棄されるものの新しい道筋になれば画期的なことです。



発行 ダイヤモンド社 2015年10月 定価:1500円+税

技術開発もすごいのですが、衣料品リサイクルを進めるにはどうするか。仕組みづくりの部分で発展できたことも大きな流れになります。「衣料品リサイクル」の仕組みは１社と提携したところで社会を変えることはできません。良品計画（無印良品）やセブンアンドアイ、イオンとつながり衣料品リサイクの仕組みが発展していきます。売り手側も今となっては大量に物を売るその先のことを考えなくてはならない時代になりました。

そのほかこの企業では「循環型社会」そのしくみづくりを携帯電話、プラスチックにも広げ「消費者参加型」のリサイクルの仕組みづくりを構築。循環される資源は「地上資源」となり。これまで紛争の火種となっていた「地下資源」で争うことのない平和な社会づくりでもあると締めくくられています。

モノづくりで発展するより、仕組みづくりで発展することがこれからのビジネスの成功のカギと言えるようです。私たち消費者もそんな仕組みを利用している企業から商品を購入し、循環に協力できたらと思います。

～ 知床あれこれ ～

理事　小田信子

知床、斜里町には町内で製造しているものを認定した「知床しゃりブランド」があります。例えば増えすぎて駆除対象になっているエゾシカを有効に利用した「鹿ジャーキー」、「えぞ鹿肉大和煮（みそ味）」、ギョウジャニンニクも入っている「えぞ鹿餃子」。

他には「しそジュース」「にんじんジュース」、小麦で作るのはラーメン「こはる」、ジャガイモでは「知床産でんぷん団子」、そして何といっても鮭ですが、塩漬け・かす漬け・燻製などなど。鮭を丸ごと頭の先から尾まで使用したフレークまであります。

麦秋の斜里町の畑はとても美しい景色で、そのまま小麦で出荷していると思っていました。斜里でラーメンになっているとは知りませんでした。生麺ですが、味も塩・味噌・醤油・焼きそばまであり、美味しいです。これらはネットでも購入できます。

お知らせ

詳細は FAX　06-6384-6168　か matsuokayh3@sutv.zaq.ne.jp　で松岡まで問合せ下さい

セミナーの案内　2月9日(土)

（定員 200 名　参加費無料）　**13:30～16:00**

・場所：ホテル　ヴィアーレ大阪4F
　大阪市中央区安土町 3-1-3
・主催:大阪公共サービス政策センター
　大阪市従業員労働組合
・コーディネーター
　久　隆浩　近畿大学教授
・パネリスト
　多田明世　茨木市役所
　早瀬　昇　大阪ボランティア協会
　柏木登紀　明石コミュニティ創造協会
　奥田豊一　豊新地域活動協議会

大阪市ハウジングデザインシンポジウム

2月10日(日)　13:30～17:00

定員 先着 100 名
参加費無料

・場所:
・主催:　大阪市立住まいの情報センター
　（大阪市北区天神橋 6-4-20）
・記念講演:木村玲欧　兵庫県立大准教授
・パネルディスカッション:
　コーディネーター:高田光雄　京都美術工芸大教授
　パネリスト:荒木公樹　大阪府建築士会
　木幡賢治　ファイナンシャルプランナー
　鈴森素子　住宅長期保証支援センター
　辻岡信也　弁護士
　浅田佐代子　住まいの情報センター

脱原発政策研究会関西 講演

2月17日(日)13:30～17:00

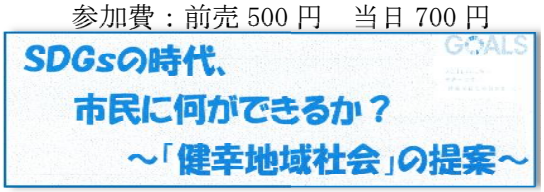
資料代　800 円

・場所：関西学院大学・梅田キャンパス 1405 教室
　茶屋町　ホテル阪急インターナショナル
・協力:原子力市民委員会
・報告 1:細川弘明　原子力市民委員会事務局長
・報告 2:朴　勝俊　関西学院大学教授
・講演:槌屋治紀　システム技術研究所所長
・コーデネーター:服部良一　元参議院議員

緑の大阪 2019 年総会 記念講演

2月3日(日)14:30～16:30

参加費：前売 500 円　当日 700 円



・場所：国労大阪会館 3F 会議室
　JR 天満駅徒歩 3 分、地下鉄天六徒歩 7 分
・講師:草郷孝好さん
　関西大学社会学部システムデザイン専攻教授
・主催:緑の大阪　連絡先:090-7348-4525 鍵谷

＜会報委員会より＞

・幅広く会員からの情報提供（原稿）を求めています。身近な話題をお寄せ下さい。
　また、取材・編集・印刷に協力願える方を募集しています。（松岡要三　090-6974-1058）